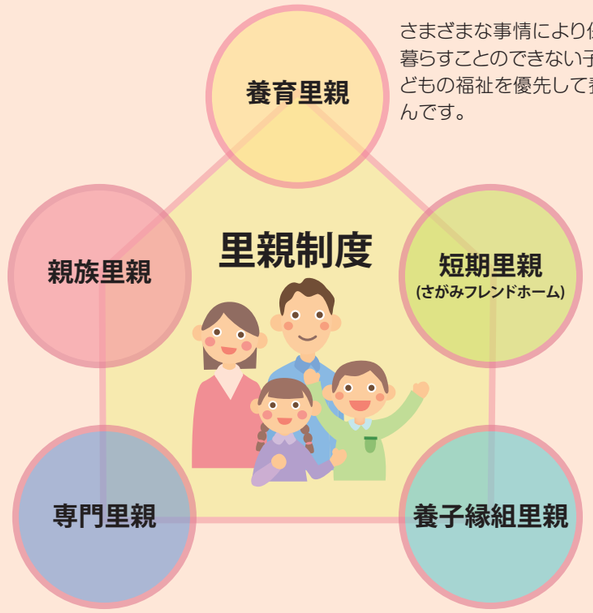
10月4日は里親デー、10月は里親月間です！

昭和23年10月4日、 里親制度の運営についての通告が出されたことに由来して、
この日を「里親デー」として、またこの日を含む10月を「里親月間」として、厚生労働省が制定しました。
"こどものための里親制度" について、この機会に知って頂けると嬉しいです。

里親制度とは

子どもは、あたたかい家庭で愛され、大切に育てられることによって、健やかに成長していきます。しかし、親の病気や離婚、虐待などさまざまな事情により、数日間から場合によっては数年間の長い間、保護者と一緒に生活することが難しい状況になってしまうことがあります。そのような子どもたちを家庭に迎え入れて、愛情と理解を持って養育してくださる人を里親といいます。

里親制度は、児童福祉法に基づき、児童の福祉の保障を目的として、里親に子どもの養育をお願いする制度です。



養育里親
さまざまな事情により保護者と一緒に暮らすことのできない子どもを、その子どもの福祉を優先して養育する里親さんです。

親族里親
両親など、子どもを現に養育する方が死亡・行方不明などになった場合、その子どもの民法に定められた扶養親族者及びその配偶者である親族が養育する里親さんです。

短期里親（さがみフレンドホーム）
養育里親の活動のひとつです。週末や長期休暇を利用して、児童養護施設等で生活している子どもを里親さんのお宅に迎え入れ、家庭的な雰囲気を体験させる里親さんです。

専門里親
虐待などにより、心身に影響を受けた子どもや、非行などの問題を有する子ども、障がいのある子どもを養育する里親さんです。

養子縁組里親
養子縁組によって養親となることを希望される里親さんです。

里親制度に関するお問い合わせ 相模原南児童ホーム 家庭養育支援センター　電話／046-251-5590（長田・平山）

ご寄付お礼 【2021年4月～6月】

米澤　崇様／株式会社セクメット　瀬戸　誠様／保科　智幸様／サンラッキー相模原店様／中臺　博様／日広建設株式会社　代表取締役　中山　智晃様／石川　恭子様／鎌田　正一様／田所　利一様／鈴木　由郎様／コストコホールセール　座間倉庫店様／高田　一美様／川﨑　知恵子様／芳賀建設工業株式会社様／花田　香代子様／細谷　直史様／相模湖ぬくもりボランティア様／渡邉　正男様／三橋　義昭様／佐竹　勝彦様／神奈川福祉事業協会　会長　伊坂　重憲様／森谷　三枝子様／会田　吉美様／三ヶ木　郁様／田中　雅子様／株式会社　ベルン様／濱田　カティア様／門馬　義信様

熱いご支援、ありがとうございます。

会議室の貸出について

会議室等のお部屋の貸し出し、親子サロン、学習支援におきまして、現在新型コロナ感染症防止の関係で、ご利用を控えさせていただいております。再開にあたっては、ホームページ上にてお知らせ致します。

ご理解・ご協力いただけますよう、よろしくお願い致します。

相模原南児童ホーム通信

発行日：2021（令和3）年9月10日
発　行：社会福祉法人　中心会　相模原南児童ホーム
相模原市南区新戸905-1　TEL：046-251-5590
URL http://sagamihara-minami.chusinkai.net/
Email：sagamihara-minami@chusinkai.jp
発行責任者：曽我幸央

児童養護施設ってどんなところ？

「社会的養護」
～全ての子どもを社会全体で育む～

社会には様々な理由により、保護者がいなかったり、保護者の適切な養育を受けられなかったりする子どもたちがいます。

「社会的養護」は、こうした子供たちを、公的責任で保護・養育するとともに、これらの家庭を支援する仕組みです。児童養護施設は、この「社会的養護」の仕組みの中に位置付けられています。

児童養護施設は児童福祉法に定められた児童福祉施設です

第41条：児童養護施設は、保護者のいない児童（中略）虐待されている児童その他環境上養護を要する児童を入所させて、これを擁護し、あわせて退所した者に対する相談その他の自立のための援助を行うことを目的とする施設とする。

家庭に代わる子どもたちの家

児童養護施設は全国に約600あり、それぞれの施設の近くには、民家やアパート等を利用したグループホームが増えています。児童養護施設には、保護・養育を必要とする概ね2～18歳の子どもたち約2万5千人が暮らしています。施設への入所手続きは都道府県等に設置される児童相談所が、公的責任のもとで行っています。
（※厚生労働調べ、平成30年2月1日現在）

乳児課/活動報告　中庭縁日に参加しました

8月の暑い日、幼児のお兄さんお姉さんに混ざって中庭縁日に参加しました。みんな甚平を来て気分はすっかり夏祭りです♪ボール当てが気に入ったようでみんなで何度も何度も挑戦しました。だんだん距離が近くなっていくのはご愛嬌ということで…。

他にもヨーヨー釣りやおもちゃの金魚すくいもやりました。大人よりも金魚すくいはみんな上手でたくさんのおもちゃ金魚が取れました。あっという間の楽しい時間でした。
（乳児課　菅原）

乳児課/活動報告　プール開きをしました

猛暑が続き、外に中々遊びに行けない乳児ですが今年もプール開きをしました。中庭にたくさんのプールを作り、お気に入りの水着とキャップをかぶって楽しく遊んでいます。普段から水遊びが大好きな子どもたちですが、プールではテンションも高くなり水の掛け合いっこをしたり、水に顔をつけてみたり色んな遊び方を見つけています。

月齢の低い赤ちゃんたちにとっては初めてのプールですが、水を怖がることなくお友達とキャッキャ言ったり、バシャバシャと水を叩いたりして水遊びを楽しむことができました。冷たいお水も暑い日にはすぐ温まり、最後まで身体が冷えることなく遊べました。たくさん遊んだあとは、もちろんぐっすりお昼寝タイム。いつもよりもたくさん寝て、また元気よく午後も遊んでいます。（乳児課　佐伯）

活　動　報　告

今もなお感染拡大を続ける新型コロナウイルスは、施設で集団生活を送る子どもたちに多くの制限をかけます。その為ユニットで過ごす時間が増え、思い切り体を動かして遊ぶ事の出来ない子どもにとってはストレスが溜まりやすい環境でもあります。そのような中で子ども達がせっかくの夏休みを満喫できるよう、ホーム全体で流しそうめんや、寄付で頂いたスイカでスイカ割りをしたり、手持ち花火ではありますが花火大会を開催しました。

また各ユニットで行事を計画し、BBQや屋上で水遊びをしたりと職員も一丸となって“夏”を感じられるような工夫を考え、時間を共にしました。

長い時間ユニットで過ごす分、子どもと職員の意見がぶつかる回数も多くなります。ですが夏休みだからこそできる楽しい行事を通してさらに信頼関係を深めていく事が出来るのも確かです。(児童課　迎)

今年は、新型コロナウィルス感染症の流行が収まらない中で迎える2回目の夏休みです。昨年の夏休みは、みんなが初めて経験する自粛という状況でしたので、今なんとか我慢すれば、普段通りに遊べるという期待がありました。しかし結果は、去年よりも状況が悪化した中での夏休み突入となり、夏休み友達と遊ぶ計画をしていた児童もいましたが、制限せざる負えなくなりました。調査会社のアンケート結果によると、昨年よりも今年の方が、遊びに出かける人が増えたそうです。そんな中、ブツブツ文句を言いながらも、我慢して外出を控えて過ごしているホームの児童は本当に褒めてあげたいです。

特に小学生を見ていると、よくそんな遊び思いつくなあと感心します。例えば、捨ててしまうようなダンボールや箱でとっても上手に工作をします。そうやって日々自分で新しい遊びを考えて過ごしています。その中でも、ユニットとして工夫した事は、屋上での天体観測です。特別珍しくもありませんが、自粛の日々においては、夜に外でゆったり過ごせる時間は児童にとって特別なことです。

これからもホームの中で過ごせる新たな遊びを児童と共に考えていきたいと思います。(児童課　前田)

コロナウイルスが蔓延している今、子ども達はとにかく「暇」と言ってきます。楽しくゲームをしても、体育館やグラウンドのように体を動かせる場所で遊んでも、室内にいる時間が長くなるとどうしても暇な時間は生まれてしまいます。そんなときは子どもからの発信を大切にしています。施設全体での行事が予定されていない日でも規模が小さくても、子ども達からすればちょっとしたことがひとつの楽しいイベントになります。牛乳パックで流しそうめんをつくってベランダでやることもそのひとつ。

私の担当しているユニットでは小学生から高校生まで幅広い年齢の子どもがいますが、楽しい事は誰でも協力して行うことができます。そんな毎日の子どものちょっとした発信を見逃さずにキャッチし、大切にするようにしています。(児童課　吉田)

このコロナ禍の中で夏休みの過ごし方がなかなか無い状況が続いています。外に出る事も難しいですが、子ども達と何が出来るかを考えて子ども達と過ごしています。

行事では流しそうめんをしたり、花火大会をしたり、バーベキューをしたりと夏を感じれるものを行事として開催しています。また、会議室を貸し切ってスクリーンで映画を観たりして夏休みだからこそできる事をしています。また、学校や部活があると中々ユニットで全員集まることが無いので夏休みは皆が集まれる良い機会だなと思いました。ユニットの中でswitchのゲーム大会をしたり、人狼ゲームをする事で話す機会が多くなったり普段以上に関わる機会が増えてくるなと感じました。

このコロナ禍だからこそ楽しめる事を考えられるチャンスだと思い日々面白そうな遊びやゲームなど子どもに提案して一緒に遊び過ごしています。(児童課　柳澤)

現在コロナ禍の影響で子ども達の遊びには限りがあります。なので、職員たちは日々子ども達が楽しく過ごせるような遊びを提供したり、日常とは少し違い、その上施設内で出来るプール遊びなどを提供して子ども達を退屈させないように工夫をしています。また、施設内では職員と子どもが一体となって行われるイベントもあり、それもまた日常と違った刺激になっていると思います。私個人の考えですが、子ども達に楽しんでもらうのはもちろん、職員も一緒になってイベントを楽しむことが、何より子どもたちの楽しいに繋がるので、楽しむことを大切にしているのではないかと考えています。

私自身は、子ども達に夏休みを退屈させないように日常的な関りや、子ども達の要求にはできるだけ応えるようにするなど、今の自分に出来る事を精一杯行っています。
(児童課　野口)

現在も猛威を振るっているコロナウイルスですが、ユニットでは、マスクをつけるなどして、感染対策を行い、河原にサイクリングに出かけ、ベンチでおやつを食べたり、昆虫採集を行いました。また、公園に出かけ、セミやカブトムシなどを捕まえたりして楽しく過ごすことが出来ています。

市民プール等にはいくことが出来ないため、屋上にプールを設置しています。また、施設の中で感染症対策を徹底しながら、流しそうめん、スイカ割り、花火大会を行っています。外に出かけることが出来なくとも、夏の風物詩を楽しむことが出来るような工夫を行っております。

また、映画館等の人が密集する施設等の利用は避けるため、施設で映画のDVD鑑賞を行い楽しく過ごしています。このようにして、制限がかかっている夏休みではありますが、暑い夏にも負けず楽しく過ごしています。(児童課　横田)

相模原南児童ホームでは、8月4日の昼食時に非常食体験を実施しました。
献立はカレー、野菜ジュースとしました。ご飯は、水もしくは熱湯を入れると出来上がる“アルファ米”、カレーはレトルトを使用しました。各ユニットで、カセットコンロ等を使用して食事作りをしました。

乳児の子ども達は、職員さんの「雨がいっぱい降ったり、風がいっぱい吹いたりして、いつものご飯が食べられない時の献立だよ。いつものご飯と違うよ。」という説明をよく聞いていました。袋からカレーが流れ出すのを面白がって見て、ぱくぱくおいしそうに食べていました。

児童の子ども達は、美味しく食べる子どもや、アルファ米を嫌がってルゥのみ食べる子どももいました。

現在、普段の食事の中でアルファ米を提供していることもあり、子どもも職員もアルファ米の扱いに慣れていると感じています。万が一の災害時に備え、非常食の扱いに慣れることは大事だと感じています。(栄養管理係　植松)